

まち・みちづくり演習Ⅰ

開講科目名	まち・みちづくり演習Ⅰ	講義題目	まちみちづくりファシリテーション、対話法入門
単位数	2単位	授業形態	演習科目
開講科目名(英)	Community Communication ExerciseⅠ	開講言語	日本語
時間割コード	360427		
定員	20人		
担当教員	森栗 茂一、秋山 孝正、蓮行		
対象所属・年次	全研究科、学部3年次以上の全学部生、社会人(若干名)		
開講区分・曜日・時間	第1期集中		
開講場所	オリエンテーションで指示する		
キーワード	土木思想、ファシリテーション、ワークショップ、合意形成、PI、宮本常一		
授業の目的・概要	<p>(1) まち・みちづくりの現場に即した実践的な公共倫理、土木計画の思想の適用と実際を学ぶ。</p> <p>(2) 地域での住民と行政・都市計画専門家との間に入るメディエータの基礎能力としての、ファシリテーション・ワークショップ、傾聴法、ラウンドテーブル、記述法、ファシリテーショングラフィクスなどの技能を活用したコミュニティデザイン力の基礎を学び、ロールプレー等の演習を行い、運用の実際を体得する。</p>		
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・まち・みちづくりの現場に即した実践的な公共倫理、思想を理解し、専門家としての研究生生活、日常生活、市民生活で積極的に活かすような態度を涵養する。 ・ファシリテーション・ワークショップ、傾聴法、ラウンドテーブル、記述法、ファシリテーショングラフィクスなどの技能を活用したコミュニティデザイン力の基礎を身につける。 ・学んだ技法とコミュニケーションデザインの基礎能力を、自己の研究生生活、日常生活、市民生活で活用する態度と基礎的能力を獲得する。 		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション(4月15日(水)第6限、豊中) 全学教育推進機構ステューデントコモンズ2階マッチング型セミナー室</p> <p>第2回 5/3(祝) 土木計画の実践における思想(秋山関西大学教授)</p> <p>第3回 5/3(祝) 続土木計画の実践における思想(秋山関西大学教授)</p> <p>第4回 5/3(祝) 土木倫理と実践 ふりかえり (秋山関西大学教授)</p> <p>第5回 5/4 いろんなワークショップ</p> <p>第6回 5/4 対話技法(アイスブレイクと自己紹介法、全体提示、全体計画と人数役割・小道具)</p> <p>第7回 5/4 演劇ワークショップとまちみちづくり (蓮行)</p> <p>第8回 5/4 演習「宮本常一」カフェ</p> <p>【事前準備】 宮本常一のエスノグラフィーのなかの、まちみちづくり、合意形成として関心を持った本を一冊選び、色眼鏡でなく心に触れた部分を、ポストイットに切り取る(タイトルと引用頁をつけ)×数箇所</p> <p>【作業】 ①カフェで、自由に語り合う ②もっとも心にふれた言葉をA4に書いて、オープンワークをする</p> <p>第9回 5/5 演習「宮本常一」カフェのふりかえり</p> <p>第10回 5/5 傾聴法とカフェ、民俗学的エスノグラフィー・生活学的切り取りと見える化、ファシグラ、一人ファシリテーション、KJ法とオープンワーク</p> <p>第11回 5/5 演習「宮本常一」オープンワーク</p> <p>第12回 5/5 演習「宮本常一」オープンワーク ふりかえり</p> <p>第13回 エスノグラフィーをまちづくりに活かす 経営とは何か 問題の構造化(SWOT分析、SJ法) (土井)</p> <p>第14回 5/6 演習「合意形成」ラウンドテーブル(ふりかえり)</p> <p>第15回 5/6 まちづくりワークショップと民俗的衆議、翁、世間師・篤農家</p> <p>OP: 5/23 日本生活学会公開講座「生活と公共」受講(中之島センター)</p>		

授業外における学習	<p>予習 (http://morikuri.cocolog-nifty.com/blog/2015/01/post-2296.html)</p> <p>1) 宮本常一の著作は、地域づくり、国土づくり、暮らしや産業づくり、コミュニティの合意などに関しての優れた情感あふれる記述：エスノグラフィーである。宮本常一の記述から、あなたの心にふれた、思わず熟読したくなるような描写（今和次郎のスケッチのような）を、2～5選びだせ。</p> <p>2) 選ぶ作業にじっくり時間をかけ、関心の向いた部分を探しなさい。本を1冊読んでの感想ではなく、あなたの視点での描写を求めている。</p> <p>3) (自分の記憶、思いが先行して色眼鏡で見るのではなく、または、自分の視点がなく他人事のように適当に引き写したのではない) 他者や私たちの地域・国土の未来を考えると時（柳田國男の指摘する「同情」と「内省」）、宮本常一の記述を、自分の視点で、かつ原典を活かし10～100字で正確に描写しなさい。</p> <p>4) 3) の描写を複数用意し、対話技法の素材、用意としたい。(20時間)</p> <p>実践 集中講義から評価の8月半ばまでに、研究生活、日常生活、市民生活などで、小さくとも模擬的なものでも、上記の技能を用いて、応用実践し、それを記録、自己評価して提出しなさい。(10時間)</p>
履修条件・受講条件	地域社会のあり方、及び自己のコミュニケーションデザイン能力の開発に関心のある院生の受講を歓迎する。
教科書・教材	授業中に配布する。
参考文献	<p>石塚雅明『参加の「場」をデザインするーまちづくりの合意形成・壁への挑戦』学芸出版社、2004年</p> <p>猪原健弘編『合意形成学』勁草書房、2011年</p> <p>大西隆編『広域計画と地域の持続可能性』学芸出版社、2010年</p> <p>国土交通省国土政策研究所『社会資本整備の合意形成円滑化のためのメディエーション導入に関する研究』(国土交通政策研究第70号)、2006年</p> <p>国土交通省国土政策研究所『都市整備における行政と住民の合意形成の円滑化に関する研究』(国土交通政策研究第20号)、2003年</p> <p>社団法人 地域問題研究所『まちづくりにみる住民の合意形成システムのあり方』(NIRA研究報告書)、2001年</p> <p>土木学会誌編集委員会・編『合意形成論ー総論賛成・各論反対のジレンマ』土木学会、2004年</p> <p>土木学会誌編集委員会・編『土木とコミュニケーション』土木学会、2004年</p> <p>原科幸彦編『市民参加と合意形成：都市と環境の計画づくり』学芸出版社、2005年</p> <p>民俗誌として 宮本常一著作集</p>
成績評価	授業への参加50%、授業における発言など20%、レポート30%。
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業を受講するにあたり、個人情報も含め、特別な配慮を必要とする学生は初回授業のガイダンス後に申し出ること。 ・ ディスカッションと演習中心で授業を進めるので、受講者の積極的な参加と発言を期待する。